

地域経済季報

(令和4年10～12月期)

総評

今期は、新型コロナウイルス感染症の第8波が到来し、感染者が大幅に増加した。そのような中ではあるが、「全国旅行支援」が始まり、観光関連では、観光客の来松が増加、「鳥取プレミアム飲食券」による相乗効果もあり、観光関連業は、回復傾向である。とりわけ飲食業においては、会食制限がないおかげで、忘年会の開催数が増え、夜にざわいざわ戻ってきた。気温が大幅に下がり始めたこと、秋冬物の衣料品などの売れ行きが好調となった。また、お歳暮や年末商戦への消費者の購買意欲の回復も見られた。内食需要については、減少傾向にあるものの、家庭環境を充実させる傾向は未だに根強く、食料品の売れ行きは堅調である。卸売業も飲食・宿泊関連への取引は好調であり、建設関連業でも、今期は好調であった。しかし、前期同様、原材料・エネルギー価格の高騰、半導体などの部品不足は続いており、費用の増加、納期の長期化は悩みの種である。一部の業種では、供給網の回復も見られ、売上が回復しているが、見通しは不透明であり、慎重を期する必要がある。来期は、原材料・エネルギー価格の高騰が続くと見込まれ、収益の悪化に加え、販売価格への転嫁も懸念されている。小売・飲食・宿泊業（サニズ関連業）においては、閑散期に入ると、観光客・地元客を含めた来店客の減少と予想されるが、「しまなつクーポン」の利用期間の延長や新型コロナウイルス感染症の感染者数減少による自粛ムードの緩和によつての消費マインド回復に期待。建設・製造関連業では、慢性的な人手不足が問題であり、継続して対処する必要がある。新型コロナウイルス感染症拡大や原材料・エネルギー価格の高騰による影響は依然として顕著と見込まれる。

		前期状況 (7～9月期)	今期状況 (10～12月期)	来期見通し (1～3月期)	調査事業所のコメント
建設業		→	↗	→	今期は、官公需共に対前年と比較しても好調に推移した。他方で、鋼材・生コン等の建設資材価格の高騰が顕著であり、労務費・運搬費の上昇を含め、収益を圧迫する事態となっている。また、安定した受注が見込まれる反面、人手不足が深刻な問題として常態化しており、各社即戦力を欲している状態が続く。来期は、公共工事については一定規模の安定を予想するが、引き続き建設資材価格の高止まりが懸念される。
製造業		→	→	→	今期は、部品不足・納期長期化、原材料・エネルギー価格上昇の影響が続く。一定の引き合いはあるが、メーカーの動向にも左右され不安定な状況。人手不足は深刻で、大きな課題となっている。来期は、好転材料に乏しく、人手確保、販路拡大に向けて取り組みたい。
卸売業		↘	→	→	今期は、宿泊・飲食関連は全国旅行支援の効果もあり、感染者が増える中でも好調で昨年度を上回る。一方で機械関連は依然として納期が見えず、先行き不透明な中で顧客となる事業者のマインドが冷え込んでおり、厳しい状況が続く。来期は、宿泊・飲食関連は現在の好調がどこまで実力値なのかが見えておらず反動を懸念。機械関連は依然として納期が見えない中、業績も見通せない状況となる。
小売業	衣料品	↘	→	→	今期は、全国旅行支援がスタートする等、人の動きが活発化する要因もあったが、地元客がメインとなる衣料品についての動きは鈍く感じる。10、11月と温度変化も緩やかでニット等の冬物の動きも活発だった。原材料高、円安の影響も徐々に出てきている。来期は、上記要因による消費マインド回復に期待したいが、衣料品(特に高額商品)は後回しになる傾向もあり、物価の中、衣料品への消費行動にごまかすか不透明。
	家電	↗	↗	→	今期は、全国旅行支援が一定あると思われる。来期公募予定のエネルギーコスト削減対策補助金に向けた。その背景には、県や市のエネルギーコスト削減対策補助金の活用があったと考えられる。来期は、世界的な燃料価格の高騰により、引き続き電気代の高騰が考えられる。また、降雪量が平年並みの予報であり、暖房器具の需要が一定あると思われる。来期公募予定のエネルギーコスト削減対策補助金に期待。
	自動車	↘	↗	→	今期は、半導体をはじめとする部品不足や海外の都市封鎖による部品供給網の混乱により、納期の長期化と販売減少が続いていたが、今期は供給網の乱れが一段落し、半導体などの部品不足も徐々に改善しつつあることから、新車販売台数は前年同月と比較して増加傾向にある。来期は、部品不足問題や一部納期の長期化・受注停止等不透明な状況もあるが、新車投入による受注状況の好転が伺える傾向も見え出しており、決算期に向けた販売目標に期待。
業	総合量販店	→	→	→	今期は、来店客数は前年を超えたものの客単価は微減した。気温が下がり秋冬物衣料品は売れ行きが良く、10月、11月開催の催事は近年の中では多くの方足を運んでいた。高額品やクリスマス装飾品等は比較的好調であり、家庭生活の充実意欲が定着している印象。歳暮・年末商戦に向けてプレミアムチケット販売が大変好評で来店に繋がった。来期は、しまなつクーポンの利用も多く観光客の来店も実感しており、今後コロナ感染拡大に伴う行動制限等がないことを願う。円安や原材料の上げが懸念。
	スーパー	→	→	→	今期は原油高、天候不順などの影響により客単価は上昇傾向にあった。前年と比較すると感染症に対しての消費者マインドの変化から内食需要は減少傾向にあるものの依然として感染症拡大前の数字と比較して堅調に推移している。来期は、現在感染症の第8波を迎える中で改めて内食需要が高まるのが予想されるものの、感染状況は日々変化している中で見通しは不透明。今後も食品関連の値上げ品目が随時追加されていくことも消費者の買い控えに繋がるのではないかと懸念もある。
	特産品	↗	↘	→	今期は、前年同期と比較し、前半は全国旅行支援もあり、来店客数も増えたため需要が増えたものの、後半は新型コロナウイルス感染症の拡大により、人の移動が減少し、売上が低迷した。来期は、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念に加え、閑散期でもあることから人の移動も少なく、当地特産品への需要期待も薄い。
サービス業	飲食	↘	→	→	今期は、全国旅行支援が始まり、観光客が訪れやすい店舗では改善の動きが見られた。会食人数を制限するような要請もなく、プレミアム飲食券などにも支えられ、一部店舗では忘年会の前倒しや再開の動きも見られるなど回復の兆しが出てきた。しかしながら、回復傾向の店舗とそうでない店舗とのバラつきが見られたり、原材料高やエネルギーコスト上昇の影響から収益を圧迫される事態となった。来期は、閑散期となるため厳しくなると予想されるが、引き続き地元客の利用動向が鍵となる。
	旅館・ホテル	→	↗	→	今期は、観光シーズンで神在月ということもあり、全国回復の押しを受け、問合せ等の対応に苦慮したものの、宿泊者数は好調に推移。昨年12月までの、コロナ感染者数が落ち着いた時と同様の回復傾向が見られた。来期は、閑散期に入ると、コロナで自粛される人が増加すると予想され、厳しい状況に入ると懸念するが、一方で年明けの国の観光需要喚起策に期待。
	運輸・客旅	→	↗	→	今期は、夜利用や観光客需要も向上となり、タクシー利用も回復傾向ではあるものの、原油価格の高騰や従業員不足により依然厳しい状況。トラック等運送業では燃料のコストアップや各種資材高等の影響を受け損益状況は悪化。貨物についてはコスト高を受け運賃・料金水準が悪化している一方、輸送数量が増加したため全体としては改善傾向が見られる。来期は、閑散期でもあり、価格高騰が続く厳しい状況となる見通し。

※売上の前年同期比について ↗ → ↘ により表しています。